

第6回 「日本語大賞」

テーマ

^{いま} ^{つた} ^{ことば}
「今、伝えたい言葉」



小学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品「ありがとう」にチェンジ！

神奈川県

湘南ゼミナール中川教室

小学6年 神部 野乃子

「ありがとう」にチエンジ!

神奈川県 湘南ゼミナール中川教室 小学六年 神部 野乃子(じんぶ・のこ)

「朝早くからごめんね。」到着した出雲空港で迎えに来てくれた祖父に母が言った。私は母と、祖父母のいる島根県に行ったのだが、飛行機が朝一便で早朝に到着したのだった。私も、母に続いて「ごめんね、じいじ。」と言った。すると祖父は、「ごめんねなんて言わなくていいんだよ。ありがとうでね。」と笑った。私は、ごめんねでいいんじゃないのかなあと思ったが、他に話したいこともたくさんあったので、それ以上そのことについて考えることはなかった。

空港から車で四十分、祖父母の家に到着した。家に入ると、大好きないとこと再会でき、抱き合って喜んだ。そして、みんなが待ちに待っていた、夕ご飯の時間になった。その日は、いとこの大好物の手巻きずしと料理上手の祖母の手料理がテーブルいっぱいになっていた。叔母は、「好きなものばかり。こんなにたくさんすみません。」と言った。すると祖父はまた、「ありがとうでいいよ。」とご機嫌に笑った。私は、あれ? またじいじが「ありがとう」の話をしている。なぜそんなにありがとうにこだわるんだろうと考えてみた。

例えば、困っている友達を手助けした時、「ごめんね」と言われるのと「ありがとう」と言われるのでは、どちらの方が良いか考えてみた。ありがとうの一言は、感謝の気持ちが伝わり、自分も相手も笑顔になれる。ありがとうの方が気持ちも明るくなれる。だから、祖父はいつも教えてくれているんだ。私も、ありがとうに変えていこう! と思った。

島根で過ごす一週間はとても楽しく、あつという間だった。帰日も祖父母が空港まで送ってくれた。私と母は、祖父母にたくさん「ありがとう」を伝え、機内へと向かった。搭乗ゲートで別れた後、祖父母はいつも屋上に上がり、離陸するまで手を振って見送ってくれる。今回もそうだった。しかし、飛行機は離陸直前、着陸便待ちのため、しばらく動かなくなった。窓から見ると、祖父母は手を振り続けてくれている。私は申し訳ない気持ちでいっぱいになった。長い時間がかかり、飛行機はようやく離陸した。見えなくなるまで手を振り続けてくれる祖父母に、一生けん命手を振り返しながら、私は涙が出そうだった。

そして、無事私は羽田空港に着いた。私は祖父母に、到着を知らせるメールを打った。「たくさん待たせてごめんね。」メールを見返した。「あっ!」私は祖父の言葉を思い出して、メールを打ち直した。「ずっとずっと手を振ってくれて、本当にありがとう。」私は、祖父母への感謝を胸に、送信ボタンを押した。